苦の坂を下り御園より小方に入る

太閤（豊臣秀吉）、小方に立ち寄る

江戸時代、亀居城本丸跡の南にある新町川下流に「新町」という地名がありました。（当時の新町川は今より東側を流れていました）

現在では、この地名はなくなりましたが「新町川」や「新町沖新開」はこの新町の名に由来します。

まだこの付近に民家がなかった桃山時代のころ「文禄の役」（朝鮮に出兵）で、太閤（豊臣秀吉）が京から九州の名護屋城へと出陣した時のことです。

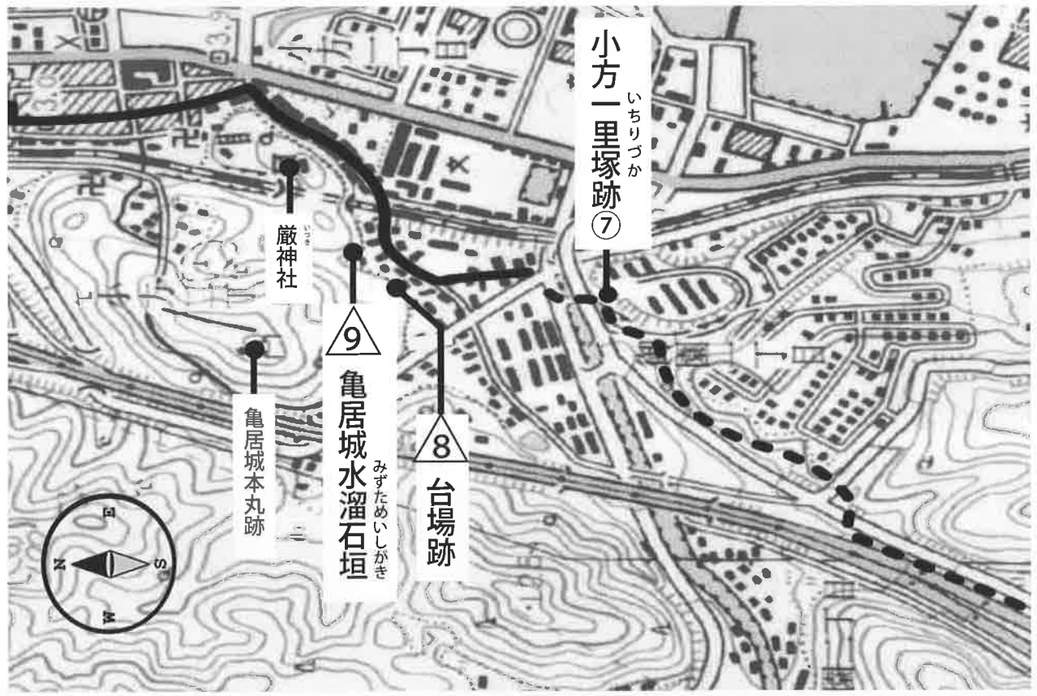
天正20（1592）年4月15日、厳島神社へ参詣してから、船で小方に着き、一時休息して陸路で周防玖珂へ向かいました。小方では毛利侯が、新町川河口付近に休息所を建てて接待をしました。

帰途には小方に一泊しました。村人も天下人太閤（豊臣秀吉）の一行を出迎え、興味深く眺めていたのではないでしょうか。

なお、朝鮮出兵の時、大阪～名護屋間の水運では、小方にも継船が用意されたといわれています。

円通寺のこと

小方の台場跡には、中世から江戸時代の初めまで「円通寺」というお寺がありました。



⑦小方一里塚跡※

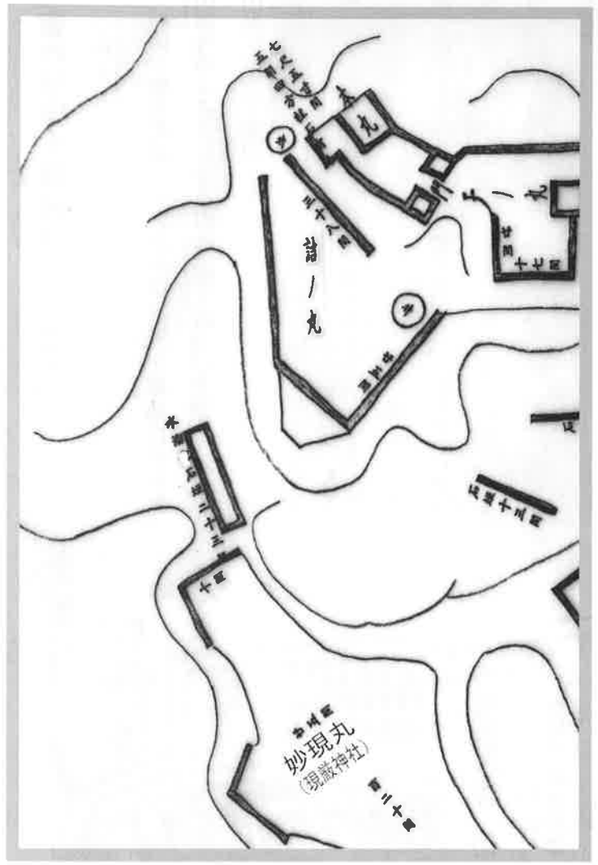
一里塚とは、街道一里（約４ｋｍ）ごとに土を盛るか、石垣で囲って樹木（広島藩は松に指定）を植え、道のりの印にして、旅人の便を図ったものである。

小方一里塚は広島から西に八里で、安芸国では最終の一里塚になる。古文書には「左右に松二本あり、古胡の下、北平にあり」とある。

現在、その位置を知ることはできないが、新御園橋の西側あたりではなかったかと推測されている。

円通寺は亀居城主 福島伯耆守の菩提寺で、本尊は観音像でした。亀居城廃城と同時に円通寺も廃寺となり、観音像は西念寺に観音堂を建て安置していました。現在は本堂に安置されています。

天正19（1591）年、毛利輝元が新築した広島城に入城しました。その頃、毛利元清に命じて円通寺の岡「桜山」（亀居城本丸跡）に出城を築かせ、城代として桂四郎兵衛を遣わしました。円通寺の山頂に城があるので「小方円通寺の城」と呼ばれていました。亀居城以前の中世末期から、この地にお城があったという話です。



小方村　古城跡絵図（広島市　上田家所蔵　模写・一部加筆）

⑨ 亀居城水溜石垣

亀居城の外郭を成す、厳神社西側の谷を塞ぐ大石垣で、高さ約１０ｍ長さ約４８ｍで、非常に強固なつくりである。

小方村古城跡絵図（広島市上田家所蔵）に、水溜石垣として描かれている。現在も完全な姿で残っているが、雑草などに覆われている。

小方台場（砲台）跡

⑧ 小方台場（砲台）跡

台場といえば東京の「お台場」が有名であるが、大竹市にも台場があった。広島藩は海岸の防備を強化するため、各所に台場を築かせたが、文久３（１８６３）年に小方お城山の麓にある円通寺跡と、黒川妙見の杜東側に、火薬庫・屯所・大砲小屋・柵等が設けられた。

妙見の杜東側の台場は、海を約２，２００平方ｍ埋め立てて造ったものである。大砲の発射訓練が行われた際は、村人がその轟音に大変びっくりしたといわれている。

名護屋―佐賀県北西部、唐津市鎮西町。豊臣秀吉は朝鮮出兵の際、この地に名護屋城を築き、本営とした。